外国語科学習指導案

日時：令和７年２月26日（水）５校時
学校名：福岡市立城香中学校
対象：２年３組　２５名
指導者：JTE　阿南　翔平
NS　松田　ラメン

1　単元について

<table>
<tr><td>単元（題材）名</td><td colspan="3">Unit7 Amazing Australia (Here We Go!2 光村図書)</td></tr>
<tr><td>学習指導要領に関連する領域別目標</td><td colspan="3">目標（４）話すこと(発表)
イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。</td></tr>
<tr><td>単元（題材）の目標</td><td colspan="3">NS が『行きたい！！』と言いたくなる福岡のディープなスポット(生徒のオススメ)を紹介するために、探究コーラル・マップを通して、自分の考えや気持ちを整理し、テーマごとにグループプレゼンテーションを行うことができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">生徒の実態</td><td>知識・技能</td><td>思考・判断・表現</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td>・不定詞の形容詞的用法・副詞的用法の文構造及び文法事項までは一通り学習が済んでいる。生徒は簡単な助動詞を即興で使うことはできるが、時・条件・理由を表す接続詞については即興で伝える段階には至っていない。</td><td>・自分のことや興味のある物事について１文や２文の英語で表現することができる。その一方、相手に質問をして、コメントを述べるなど、さらに詳細な情報のやり取りをすることに課題がある。</td><td>・多くの活動に主体的に取り組み、自分のことや興味のある物事について積極的に伝えようとする姿勢がある。その一方、友人の良いモデルを見て、それを参考にして課題を見つけ、改善する思考のプロセスに課題がある。</td></tr>
<tr><td>単元（題材）設定の理由</td><td colspan="3">（１）生徒観
学年の生徒アンケートにおいては「自分の考えや気持ちを英語で伝えてみたいと思いますか。」という項目で約８０％も肯定的回答があり、生徒らは英語で物事を伝えたいという思いを胸に秘めていることがわかった。また、「外国の人に英語で質問されたら、英語で答えてみたいですか。」という項目では、約９０％の生徒が、質問に英語で答えたいという意識があることが判明した。しかし、英語の授業において１年生から今まで数えるほどしか発表を行ってこなかった。そのため、肯定的回答の高さに比べ、実際は英語を使った発表場面では沈黙に陥ることが多かった。このことからも実態は「英語で伝えること」には苦手意識があることがわかる。加えて、生徒アンケート「自分の考えや得た情報をうまく整理できたと感じたとき」の項目では約７０％しか肯定的回答はなく、自分の考えをまとめて英語で発表することや要点を捉えて理解することにも苦手意識があることも改めてわかった。
アンケートの結果を踏まえて、１０月からパフォーマンス課題として Show & Tell や質問大会を実施してきた。その結果、スピーチの内容に対してその場で質問を行うことや発表に対するコメントを英語で書くことが少しずつできるようになった。更に、自分の考えや得た情報を整理するために、英語を聞く場面ではメモ</td></tr>
</table>

やマッピングを使用してキーワードとなる情報を整理することを実施した。生徒らはノートに整理した情報を使い、即興で話をすることが少しずつできるようになっている。

（２）教材観

本単元ではパフォーマンス課題として、「NS が『行きたい！！』と思う福岡のディープなスポット(生徒のオススメ)」をグループプレゼンテーションで提案することを設定している。このパフォーマンス課題を達成するために以下の２つを生徒用 CAN-DO リストとして提示した。

①話すこと（やり取り）：設定されたテーマについてのスピーチで、Mapping をもとに自分の考えを述べることができる。

②聞くこと：発表の内容を推測しながら、話の内容の詳細を理解し、その内容に対して反応したり質問したりすることができる。

第１時から JTE と NS の Teacher Talk で単元課題の設定を行い、生徒たちは単元を通して NS の提案に答えるという形でグループプレゼンテーションに取り組むことになった。グループプレゼンテーションまでは、プレゼンテーションの型を学ぶために本文の登場人物に成りきって内容をリテリングしている。そして、グループプレゼンテーション本番までに中間発表の機会を設定することで、プレゼンテーションの改善を図り、聞き手に表層だけの情報ではなく「深く知りたい・行ってみたい」と思わせるようなグループプレゼンテーションになるようにしたい。

（３）指導観

１０月から２月末までに指導してきたことは大きく３点ある。

１点目は、基本例文の定着である。教科書 Here We Go(1 年生)に掲載されてある基本例文を日本文→英文で即座に変換することを帯学習で行っている。現在、学級内でリーダーとペアを作り、学年対抗でどのペアが１番多く言うことができているかを競わせている。その結果として、少しずつだが、基本例文を変形させたものを Small Talk や即興での会話の中で使用している場面が見受けられた。課題として、一定のペアが学年の上位にいることが多く、他のリーダー生徒のやる気が削げているところがある。今後は数の多さではなく、リーダー育成のためにもペアで決めた目標を達成できる形に変えていく。

２点目は、質疑応答と即興でのコメントの練習である。質疑応答では教師が指定したキーワードから、すぐに３つの疑問文を作る練習を継続的に行った。そして、帯学習で前時のパフォーマンス課題であった Show & Tell を発表させ、質疑応答を行う練習を繰り返した。何度も即興で質問を作る練習を繰り返した結果、キーワードを意識した質問を作ることができるようになった。しかし課題として、生徒は質疑応答よりもスピーチ内容に対してのコメントを英語で書くことに難しさを抱えていたことがわかった。そこで現在は Teacher Talk から教師がモデルを見せることを継続し、Small Talk で具体的な情報や感想を付け足す練習を行っている。具体的な教師のモデルについて、Teacher Talk の内容は毎週曜日ごとに同じトピックを話している。その際、先週の内容を確認した後、新しい情報をつけ足

	していくことで教師と生徒のインタラクションだけでなく、先週と比較して増えた情報をその後の Small Talk でも使用できるように提示している。 ３点目は、相手が言っている内容から大切なキーワードを繰り返す練習である。Small Talk の中で聞き返す練習や相槌表現を使わせ、会話継続のスキルを養うことを心がけた。その結果として、質問を作る際に「どのキーワード」を中心とした質問を作ればいいか判断がつくようになってきた。しかし課題として、即興の会話の際に生徒はすぐに質問に答えてしまうことが多く、キーワードを繰り返すことがまだ定着していない。今後も継続してキーワードを繰り返す練習を行い、会話を継続させる方略を身に付けさせる必要がある。 本単元では、日常的な話題でグループプレゼンテーションを行い、プレゼンテーションに必要な要素を学習させる。更に、自分がプレゼンテーションを行うだけではなく、聞き手としてリアクションや質疑を行えるように指導していく。

単元（題材）の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	知識 ・比較級、最上級、同等比較の特徴やきまりを理解している。 技能 ・比較級、最上級、同等比較の形を用いて書く技能を身に付けている。	・自分のオススメについて話し方を工夫し、事実や自分の考えを整理して、聞き手に分かりやすく伝えることができる。 ・聞き手は聞いた内容をもとに情報を整理し、即興で質問することができる。	自分のオススメについて、事実や自分の考えを整理して、聞き手に分かりやすく伝えようとしている。また何度も推敲して、自分たちのプレゼンテーションの改善を行おうとしている。

2　単元の指導と評価の計画（全１５時間）

時間	学習内容 学習過程等	【評価の観点】 評価基準	のりしろ(◇)　学習課題（■）　主な学習活動（〇） ※指導上の留意点 単元の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現を目指す主な場面
第１５時	「NS が『行きたい！！』と思う福岡のディープなスポット」について、精査した英文を使用してパンフレットの記事を作成する。	総括的評価 【書くこと】 ・読み手に配慮しながら、主体的にパンフレットの記事を書くことができる。	◇パンフレット最初の目玉記事の特徴を Teacher Talk で確認する。 ■英文の確認を行う。 ①グループで英文を回し読む。 ②訂正があれば、英文に訂正を加える。 ■クリエイティブ・ライティングを行う。 ③パンフレット用の記事を書く。 ■単元の振り返りを行う。 ④Unit7 の CAN-DO を見て、「単元での目標の到達度、何を学んだか、次の単元への目標」を振り返る。 ⑤Unit8 では英文を読む際に根拠をもってジェスチャーや間、強調を行っていくことを伝える。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び

第 １４ 時	「NS が『行きたい！！』と思う福岡のディープなスポット」について、即興で話した内容を英文にする。	形成的評価 【書くこと】 ・自分が紹介した物や場所について、事実や自分の気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。	◇パンフレットの記事の特徴について、実物のパンフレットを開き、Teacher Talk で確認する。 ■ペアに向けて再度プレゼンテーションの発表。 ①個人で練習を行う。 ②ペアに向かってプレゼンテーションを行う。 ■パンフレット用の英文を作成する。 ③即興で話した内容を英文にする。 ③グループで英文の回し読みを行う。 ④文法や綴りの間違いを見つける。 ⑤全体に共通する間違いと良い点を共有する。 ⑥再度個人で英文を書く。 ◇パンフレットの最初に書かれてある目玉記事の見せ方はどのようなもの考えさせる。	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
第 １３ 時	「NS が『行きたい！！』と思う福岡のディープなスポット」をグループで発表する。 終わったら、即興で質疑応答を行う。友人の優れたプレゼンに投票する。 (NS との TT)	総括的評価 【話すこと(発表)】 ・聞き手に配慮したプレゼンテーションを行うことができる。 ・発表したグループの内容を理解し、質問することができる。	◇NS が「行きたい！！」と思う福岡のスポット(生徒のオススメ)紹介する。 ■グループ発表の最終チェックを行う。 ①各グループ発表前に、発表の仕方や質問されそうな内容等を話し合う。 ■最終のグループ発表を行う（動画撮影)。 ②グループプレゼンテーションを行う。 ③各プレゼンテーションが終了後、聞き手の生徒と NS が即興で質疑応答を行う。 ⑤一人一枚、優れたプレゼンテーションのグループを投票シートに書き投票する。 ⑥友人らの賞とＮＳの最優秀賞を共に発表し、プレゼンテーションの良かった点と更に改良できる点を伝える。 ⑦観光案内のパンフレットを書くことを伝える。 ◇実際の福岡のパンフレットを提示し、パンフレットの記事の構成を尋ねて終わる(開かない)。	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
第 １２ 時	前回の中間発表を活かして、プレゼンテーション内容を改善し、練習を行う。	形成的評価 【話すこと(発表)】 新しい情報を加えたプレゼンテーションになるように内容を改善しようとしている。	◇新出情報について Teacher Talk で再確認する。 ■グループ発表の最終チェックを行う。 ①「来日する予定の家族」についてグループで話し合い、個々のマッピングに情報を付け足す。 ②スライドの変更が必要であれば、変更を行う。 ■練習を行う。 ③グループプレゼンテーションの練習を行う。 ◇次時が最後のプレゼンテーションで、NS の家族にもプレゼンテーションを見せることを伝える。	主体的な学び	対話的な学び	深い学び

第 １１ 時	中間発表を通して、自分のたちの発表を改善しようとしている。 (NS との TT)	形成的評価 【話すこと(発表)】 自身の発表とルーブリックを比べながら、より良い発表にするために改善しようとしている。	◇プレゼンテーションは聞き手に「行動」を起こさせることが説明との一番の違いだということを伝える。 ■CAN-DO リストを確認する。 ①生徒用の CAN-DO リストとルーブリックを確認し、練習内容を明確にする。 ■２つのグループで中間発表を行う。 ②マッピング・シートを見ずに、プレゼンを行う。 ③他のグループはプレゼン後、質問を行う。 ■NS から新しい情報を聞く。 ④NS に質問を行う。 ⑤即興で内容を変更し、ペアに向けて新しい内容のプレゼンテーションの練習を行う。 ◇新出情報を踏まえて、スライドやプレゼンテーションの改善を次時に行うことを伝える。 **主体的な学び** / **対話的な学び** / **深い学び**
第 １０ 時	グループプレゼンテーションに向けて、即興で話す練習を行い、発表の見通しを立てる。	形成的評価 【話すこと(やり取り)】 事実や自分の考えを整理し、マッピングをもとに簡単な語句や文を用いて伝えあうことができる。	◇スライド間のやり取りを意識して何度も即興で練習を行うことを伝える。 ■CAN-DO リストを確認する。 ①生徒用の CAN-DO リストを確認し、練習内容を明確にする。 ■スライドとマッピングを見て、即興で伝える練習を行う。 ②マッピング・シートを見ながら、暗記や棒読みにならないようにグループで練習を行う。 ③リーダーが中心となって、アイコンタクトやジェスチャー、間の取り方を確認する（動画撮影)。 ◇プレゼンテーションと説明の違いを伝える。 **主体的な学び** / **対話的な学び** / 深い学び
第 ９ 時	グループプレゼンテーションに向けて、練習を行う。	形成的評価 【話すこと(発表)】 マッピングを使用して、即興で英語を話すことができる。	◇プレゼンテーションにおいて、スライド間での双方向のやり取りの大切さを確認する。 ■グループでプレゼンテーションについて話し合い、練習を行う。 ①個人でグルーピングとナンバリングを行い、練習を行う。 ②自分の前後の人の発表を聞き、発表と発表の間が自然な形になるようにスライドを作成する。 ◇発表を一つのストーリーにするため、グループでスライドの間を意識した発表の流れにすることを伝える。 主体的な学び / **対話的な学び** / 深い学び
第 ８	代表者の発表を見て、良い点と改善	形成的評価 【話すこと(やり取り)】	◇代表者のリテリングを見て、最終プレゼンテーションの参考にできる部分を見つけるよう伝える。

時	点について理解する。 (NS との TT)	代表者のリテリングを見て、良い点や改善点を自分のプレゼンテーションに取り入れようとする。	■代表者が NS に対して教科書のリテリングを行う。 ①NS に対して Unit7 のリテリングを行う。 ■良い点と改善点について話し合う。 ②グループで代表者のプレゼンの良い点と改善点について話し合う。 ③NS は代表者のプレゼンテーションを見て、スライドの切り替えにおける重要な点を全体で共有する。 ◇スライド切り替え時の言い方一つで聞き手がプレゼンに興味をもつ可能性があることを伝える。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第 7 時	グループプレゼンテーションに向けて、マンダラートをもとに協力してマッピングを伸ばし、発表内容を深める。	形成的評価 【書くこと】 事実や自分の考えを整理することができる。	◇発表のグループで探究コーラル・マップを作成することを伝える。 ■グループで探究コーラル・マップを作成する。 ①マンダラートでトピック（自然・文化・食事）から連想するキーワードを洗い出し、人数分選択する。 ②それぞれが選んだキーワードでマッピングを行い、内容を深める。 ■自分の担当部分を深める。 ③作成したマッピングを説明し、グループからアドバイスをもらう。 ④マッピングや話す内容を修正し、自分のパートを仕上げる。 ◇Unit7 のリテリングを代表者が NS に向けて行うことを伝える。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第 6 時	グループプレゼンテーションに向けて、NS の興味関心を惹きつけるために質問大会を行う。 (NS との TT)	形成的評価 【話すこと（やり取り）】 NS との対話を通して、NS についての情報を手に入れることができる。	◇発表のグループを作り、ラメン先生の興味関心を知るための質問を行うことを伝える。 ■グループ発表のメンバーを決める。 ①グループごとにどのトピック（自然・文化・食事）で発表するかを選択する。 ■NS に質問を行う。 ②グループごとに選択したトピックに関する質問を行う。 ③質問の答えを Y チャートにまとめる。 ◇探究コーラル・マップを作成するため、紹介したい場所を考えておくことを伝える。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第 5 時	本文内容をもとに、聞いたり読んだりしたことについて自分の言葉で	総括的評価 【話すこと（やり取り）】 オーストラリアについて、読んで知った事実や	◇Unit7 の内容を Teacher Talk で振り返る。 ■リテリングの仕方を促す。 ①個人で本文のマッピングを見ながら、リテリングの練習を行う。

	伝える。	登場人物の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いて自分の言葉で伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	■グループ内で発表し、質疑応答を行う（動画撮影）。 ②Ms. Brown になりきり、スライドを使いながら本文のリテリングをグループで行い、質疑応答を行う。 ③グループ内で互いに評価し、リテリングが一番良かった人を決める。 ◇次の時間からプレゼンテーションに入るため、NS に質問したいことを考えてくるように伝える。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第 4 時	オーストラリアの世界遺産について詳しく説明する。	形成的評価 【書くこと】 オーストラリアの世界遺産について、読んで理解したことを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。	◇プレゼン中に聞き手に質問することが双方向のコミュニケーションにつながることを伝える。 ■本文の概要を理解する。 ①教師の Question を聞き、本文のドラマを見る。 ②教科書で本文を読み、ペアでワードハントを行う。 ③ペアで音読練習を行い、その後全体で音読を行う。 ④教師の Q&A に答え、マッピングを作成する。 ■理解した内容をペアに即興で伝える。 ⑤教師のリテリングのモデルを見る。 ⑥ペアでマッピングを見ながら、ジェスチャーを加えたリテリングを行う。マッピングの内容だけでなく、１文付け足すことを目標にする。 ⑦個人でリテリングした内容をノートに書く。 ◇次の時間に Ms. Brown に成りきって Unit7 全体をリテリングすることを伝え、教師のモデルを見る。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第 3 時	オーストラリアで１番人気のあるスポーツの特徴について詳しく説明する。	形成的評価 【書くこと】 オーストラリアのスポーツについて、読んで理解したことを、簡単な語句や文を用いて書くことができる。	◇前時の本文の内容（オーストラリアの概要）を Teacher Talk で確認する。 ■本文の概要を理解する。 ①教師の Question を聞き、本文のドラマを見る。 ②教科書で本文を読み、ペアでワードハントを行う。 ③ペアで音読練習を行い、その後全体で音読を行う。 ④教師の Q&A に答え、マッピングを作成する。 ■理解した内容をペアに即興で伝える。 ⑤教師のリテリングのモデルを見る。 ⑥ペアでマッピングを見ながら、ジェスチャーを加えたリテリングを行う。マッピングの内容だけでなく、１文付け足すことを目標にする。 ⑦個人でリテリングした内容をノートに書く。 ◇プレゼン中に聞き手に質問することの意図を問う。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第 2	本文のプレゼンテーションの要点を	形成的評価 【読むこと】	◇Unit7 についての CAN-DO リストと前時の生徒の案が含まれたルーブリックを配布し、この単元ででき

時	つかみ、比較表現がプレゼンテーションの中で使われている理由を考える。	・オーストラリアの基本情報について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。	るようになることとテストとの関連を確認する。 ■本文の概要を理解する。 ①教師の Question を聞き、本文のドラマを見る。 ②教科書で本文を読み、ペアでワードハントを行う。 ③ペアで音読練習を行い、その後全体で音読を行う。 ④教師の Q&A に答え、マッピングを作成する。 ■理解した内容をペアに即興で伝える。 ⑤教師のリテリングのモデルを見る。 ⑥ペアでマッピングを見ながら、ジェスチャーを加えたリテリングを行う。マッピングの内容だけでなく、１文付け足すことを目標にする。 ■プレゼンテーション内の比較級の意味を考える。 ⑦比較級に線を引き、プレゼンテーションの中で比較級を使用すると聞き手にどのような印象をもたせるかグループで話し合う。 ◇前単元の Show & Tell の段落構成から、次の本文の内容がどのような話(オーストラリアについての具体的な話)になるか予想させる。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び
第１時	JTE と NS の会話を見て、単元課題について知る。 (NS との TT)	形成的評価 【話すこと（やり取り)】 ・自分が関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝えあうことができる。	◇前単元で学習したことを Teacher Talk で聞く。 ■Teacher Talk から単元課題を示唆する。 ①Teacher Talk で冬休みの話をし、JTE が近隣にあるディープな場所について NS と話す。そして「NS が『行きたい！！』と思う福岡のスポット」をグループ発表することが Unit7 の課題であることを伝える。 ■福岡のお気に入りの場所について即興で伝える。 ②マンダラート(Three-sided Mandalat)を用いて、ペアで互いに自分のお気に入りの場所について説明し、質疑応答を行う。 ③自分が話した内容を英文にまとめる。 ■聞き手を惹きつける方法について考える。 ④グループになり、NS が体験してみたいと思えるプレゼンにするためにはどうしたらいいか話し合う。 ◇スピーチの内容、聞き手が聞き入るような話し方、会話の継続方法について出た案を全体で再確認する。 主体的な学び　対話的な学び　深い学び

3　本時の目標

・中間発表を通して、自身の発表とルーブリックを比べ、プレゼンテーションの内容がより良くなるように改善しようとしている。

4　本時の展開(11/15 時間)

教師の指導、ペアやグループでの活動、個人の活動、[　　]の◇は前時、◆は次時との「のりしろ」。教師と生徒の「やり取り」の場合、教師主導の色の下にやり取りを青く示している。なお、青色であっても個人の活動を含む場合がある。

段落	学習内容（分）（学習形態）	教師の役割		※指導上の留意点 ◆評価【観点】（評価方法）
		JTE	NS	
導入	◇1 Teacher Talk(3) (やり取り)	・教師-生徒の掛け合いになるよう全体に問いかける。	・単調なプレゼンにならないようにジェスチャーや声の大切さを伝える。	※前回の授業の最後に示したプレゼンテーションと説明の違いを提示する。プレゼンテーションに大切な要素(ジェスチャーやクリアボイス)を NS が示す。
	2 Today's Goal(1)	・本時の目標の空白部を生徒に考えさせる。		※本時の目標を確認することで、授業の概要を把握する。 ※声に出して Goal を読ませる。
	Goal: プレゼンのリハーサルを行い、より良いプレゼンになるように内容を改善しよう。			
展開	3 CAN-DO リストの確認(2)	・練習前に CAN-DO を確認させる。		※最終発表での目標を確認させ、本時の学習の方向性を自ら調整させる。
	4 中間発表（15) ①他のグループに発表する。(5 分) ②聞き手のグループは質問を行う。(1 分) ③もう一つのグループが発表を行う。 ④時間があるグループは改善点について話し合い、練習を行う。 ⑤JTE と NS のアドバイスを聞く。	・良いモデルや気づいたことを NS と共有する。 ・1 つのグループのリハーサルを見る。	・中間発表の流れの説明を行う。 ・発表終わりの質問タイムに参加する。 ・発表後に全体に共通するアドバイス伝える。	※発表の順番は事前に決めておく。 ※プレゼンテーションを行うグループが聞き手のグループの所へ向かう。 ※マッピングは見ないように指示を出す ※聞き手はプレゼンテーション中にノートにメモを取ることを伝える ※プレゼンテーションを見ている班は、発表している班のプレゼンテーションを撮影する。 ※JTE と NS が全体に共通するアドバイスを行い、どうすればより良くなるか見通しをもたせる。
	5 NS の話を聞く(13) ①内容の変更を知る。 ②個人で質問したい内容をマンダラートに書く。 ③互いのマンダラートを確認後、グループで質問する内容を決	・来日する家族のことを知らないといけないことを伝える。 ・英文の間違いにリキャストを行う。	・新しい事実を伝える。 ・プリントを配る ・生徒の質問に答えていく。	※JTE と NS は要点だけを話して、④の質問の時間を確保する。 ※NS の突然の発言に対して慌てている JTE を演出する。 NS: Their presentation is good, but… JTE: You look sad. What's up? NS: Well. I want the students to change their presentation.

	める。 ④NS に質問する。 6 その場で内容を組み換えて練習(12) ①個々のプレゼンテーションのどこを変更すべきかグループで話し合う。 ②全体で確認する ③写真を持ったペアに向けて練習を行う	・机間巡視を行い、良い考えがあれば共有するためにメモしておく。	・フィリピンに住む両親に動画を送ることを伝える。 ・両親の写真を各ペアに渡す。	JTE: Really? Are you serious? Why? NS: Because my family is coming to Japan. JTE: Family? But your husband and son live in Fukuoka. NS: No, my father and mother are going to come to Japan. JTE: Everyone, please help make her wish come true. ※敢えて初めからモデルを示さず、生徒らにプレゼンテーションの始まりの呼び掛けや I know you like～といったフレーズに気づかせる。
まとめ	7 まとめ(3) ①練習を見た NS からのコメントを聞く。 ②自己評価シートを書き、振り返る。 ③自己評価シートの内容を発表する。	・自己評価シートを配布する。 ・机間指導で共有したい振り返りを見つける。	・修正した練習内容にアドバイスを与える。	※NS は生徒にプレゼンテーションの訂正をしてくれたことを感謝する。 ◆プレゼンテーションを通して自分の課題を確認し、改善しようとしている。 （自己評価シート分析）
	◆9 次の時間の内容を知る(1)	・マッピングの訂正が必要であれば行うよう伝える。		※NS の両親からの英文の手紙(福岡旅行をとても楽しみにしている)を見せ、生徒がこだわりをもってプレゼンテーションに臨めるように、あと 1 時間練習の時間があることを伝える。

5　授業の視点

・NS との Team Teaching において、生徒を巻き込みながら授業を行えていたか。
・プレゼンテーションの内容に変更を加えて、即興で伝えることができているか。
・プレゼンターや NS に対して、質問ができているか。

～用語解説～

マンダラート、階層式マッピング、インタビュー・マッピング、探求コーラル・マップは、いずれも中嶋洋一が提唱する思考ツールである。詳しくは、DVD『6-way Street 下巻』(中嶋,管,北原,久保田,田尻,蒔田/バンブルビー)中嶋の解説や、『英語教育 2024 年 10 月号』「階層式マッピング」で鍛える「思考・判断・表現」(三仙,高杉,冨藤,中嶋,山内/大修館書店)を参考にされたい。

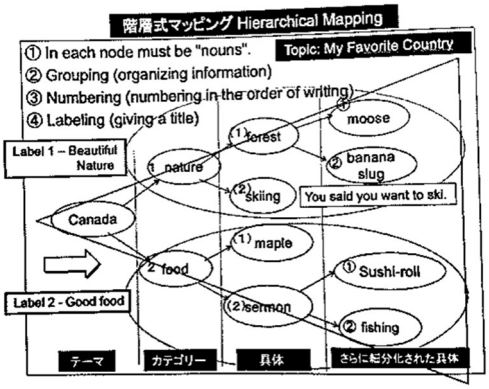
○マンダラート

９つマスを用意し、中心に最も関心のあることを書く。関連することをまわりの８つのマスに書きこんでいく。発想力を高めることをねらいとする。

Shibuya	ghost	Jack-o-Lantern
costume	Halloween	pumpkin
trick or treat	street performance	October 31st

○階層式マッピング

従来の放射状に広げるマッピング(トニー・ブザン式)ではなく、英語の語順の様に左から右へ、それぞれの情報を階層式に広げるマッピングである。



『英語教育 2024 年 10 月号』P.34(大修館書店)

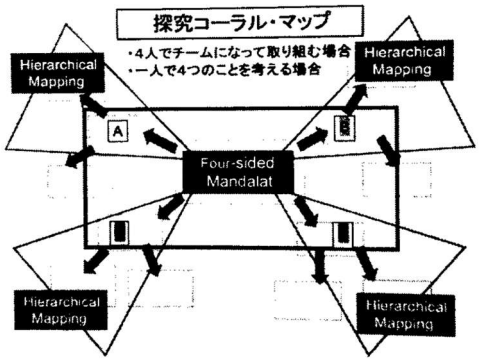
○インタビュー・マッピング

思考力を鍛える即興での活動。名前がインタビュー(&)・マッピングとなっているのは、インタビュー自体が目的を持った言語活動のためである。インタビューでは、マッピング（グルーピング、ナンバリングを含む）を使って内容を整理しながら、相手の言っている内容を深掘りしていく必要がある。活動後には、ノート等に履歴が残るため、マッピング・シートを参考にしながら、違う友人にその内容を伝えたり、ノートにわかったことをレポートし、それをグループで回し読みをしてコメントを書き入れたりといった「つながる言語活動」にまで発展することができる。

詳しくは「なかよう備忘録」２０２４年１０月７日　「階層式マッピング」で鍛える「思考・判断・表現」と「探究しようとする意欲」をご覧ください。

○探求コーラル・マップ

マンダラートと階層式マッピングを組み合わせたイメージである。テーマに基づいて、深めたい内容を「自己決定」(個別最適な学び)する。それぞれが制作したスライドを持ち寄り、全員でコーディネートし(協働的な学び)、ストーリーにする。



『英語教育 2024 年 10 月号』P.35(大修館書店)